

5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100



昭和四年十二月

滋賀縣彦根圖書館報

● 食物は身體の榮養

● 書物は精神の榮養

始



27847

滋賀縣彦根町立彦根圖書館報

目次

第一、沿革	一
第二、館則及諸規程	一五
第三、藏書	二二
第四、圖書目錄及分類	二三
第五、圖書閱覽ノ狀況	二三
第六、經費	二九
第七、館員	三〇
第八、寄贈	三二
第九、施設事項	三五
第十、其他	四〇

滋賀縣彦根町立彦根圖書館報

昭和四年十二月末調

第一、沿革

一、大正三年滋賀縣立彦根中學校改築竣工セルヲ以テ、舊校舍拂下ノ議アリ因テ彦根町長柳瀬銀藏ハ本町ニ之ガ拂下ヲ受ケ之ヲ改造シテ彦根公會堂ト爲シ圖書館及物産陳列館ヲ附設セント欲シ、大正三年七月十一日町會ヲ招集シ之ガ豫算案ヲ提出議決シ即日校舍拂下ノ件ヲ本縣知事ニ申請シ其ノ認可ヲ得タリ。

一、大正三年十月本町金龜四番ノ一、二、三、四、五、六、七番地金龜公園内八段七畝二十三歩ノ地ニ公會堂建設ノ工ヲ起シ翌四年三月二十九日竣工セリ。

一、大正四年六月十五日ヨリ圖書館事務ヲ開始シ館内ノ設備圖書ノ蒐集簿冊ノ調製ニ從事ス。同年十二月十四日町會ニ於テ圖書館規則ヲ議定セリ。

備品ハ町有志ノ寄附金ヲ以テ之ニ充テ書架、机、椅子、腰掛、簿冊ヲ設備シ尙圖書ヲモ購入セリ其外圖書ハ町役場、東西兩小學校ノ藏書ヲ移入セシモノト各方面ノ同情トニ依リ多數ノ寄贈又ハ委託セラレタルモノトヲ併セ圖書三千八十八冊、雜誌千二百二十四冊、通計四千二百二十二冊ニ達シ大正五年二月一日ヲ以テ假リニ開館スルコトヲ得タリ。因ニ本町圖書館設立ハ明治四十二年無根水會同志ノ首唱其因ヲ爲シ井伊家ヨ

27847

滋賀縣彦根町立彦根圖書館報

目次

第一、沿革	一
第二、館則及諸規程	一五
第三、藏書	二二
第四、圖書目錄及分類	二三
第五、圖書閱覽ノ狀況	二三
第六、經費	二九
第七、館員	三〇
第八、寄贈	三二
第九、施設事項	三五
第十、其他	四〇

滋賀縣彦根町立彦根圖書館報

昭和四年十二月末調

第一、沿革

一、大正三年滋賀縣立彦根中學校改築竣工セルヲ以テ、舊校舍拂下ノ議アリ因テ彦根町長柳瀬銀藏ハ本町ニ之ガ拂下ヲ受ケ之ヲ改造シテ彦根公會堂ト爲シ圖書館及物産陳列館ヲ附設セント欲シ、大正三年七月十一日町會ヲ召集シ之ガ豫算案ヲ提出議決シ即日校舍拂下ノ件ヲ本縣知事ニ申請シ其ノ認可ヲ得タリ。

一、大正三年十月本町金龜四番ノ一、二、三、四、五、六、七番地金龜公園内八段七畝二十三歩ノ地ニ公會堂建設ノ工ヲ起シ翌四年三月二十九日竣工セリ。

一、大正四年六月十五日ヨリ圖書館事務ヲ開始シ館内ノ設備圖書ノ蒐集簿冊ノ調製ニ從事ス。同年十二月十日町會ニ於テ圖書館規則ヲ議定セリ。



備品ハ町有志ノ寄附金ヲ以テ之ニ充テ書架、机、椅子、腰掛、簿冊ヲ設備シ尙圖書ヲモ購入セリ其外圖書ハ町役場、東西兩小學校ノ藏書ヲ移入セシモノト各方面ノ同情トニ依リ多數ノ寄贈又ハ委託セラレタルモノトヲ併セ圖書三千八十八冊、雜誌千二百二十四冊、通計四千二百二十二冊ニ達シ大正五年二月一日ヲ以テ假リニ開館スルコトヲ得タリ。因ニ本町圖書館設立ハ明治四十二年無根水會同志ノ首唱其因ヲ爲シ井伊家ヨ

リ其ノ創設費中へ金參千圓ノ寄附アリ茲ニ其實現ヲ見タルモノナリトゾ。

一、大正四年十一月十日 御即位ノ大禮ヲ行ハセラル、ニ際シ、彦根町ノ有志ハ御大典奉祝協賛會ヲ組織シテ會員ヲ募集シ以テ祝意ヲ表スルタメニ美術品展覽會、學藝品展覽會等種々ノ事業ヲ舉行セリ。然ルニ其施設タルヤ何レモ一時的ノモノニシテ永久ノ記念トナラザルニ因リ開國文庫ヲ起シ、御大典記念トシテ町立彦根圖書館内ニ附設セントノ議起リ、終ニ協賛會寄附金ノ一部ヲ以テ之ガ開設ヲ決定セリ、因テ協賛會ハ參百參拾六圓七拾五錢七厘ヲ開國文庫費トシテ彦根町役場ニ寄贈シ、町會ハ之ヲ採納シテ大正五年度本館圖書購入費中ニ編入シ、四月以來其設置ニ着手シ、終ニ七月廿日ヲ以テ開始シ一般公衆ノ閱覽ニ供スルニ至レリ。

日本ノ開國ニ關シテハ老中阿部伊勢守正弘ハ北米合衆國ト修交條約ヲ締結シ、老中堀田備中守正睦ハ通商條約ヲ議定セシガ其調印ニ際シ故障起リテ容易ニ成立セザリシヲ大老井伊掃部頭直弼ハ北米合衆國水帥提督ペリー渡來ノトキヨリ貿易說ヲ唱ヘシニヨリ大ニ決スル所アリテ終ニ通商條約ニ調印成立セシメ以テ幸ニ國家ニ事ナキヲ得タリ、彦根ハ直弼ノ出身地ニシテ明治聖代ヲ經テ、日本文華ノ盛ニ開ケシ其根元ハ開國ニ基ケルニヨリ、大正ノ御大典記念トシテ開國文庫ヲ彦根ニ設置スルハ最モ適切ナル施設ナリト信ジタルニ因ル、而シテ開國ノ遠源ハ天文十一年葡萄牙船渡來ニ在リ、故ニ本文庫ハ主トシテ天文十一年以後ニ起リシ外交上ノ圖書記錄ヲ始メトシテ、外國ノ事情ヲ記セルモノ、學術ニ關スルモノ、外國人ニ接觸シ若

クハ學術上ヨリ日本ニ影響シタル事情ニ關スル内外等ノ書籍ヲ廣ク蒐集シ以テ現代文明ノ由テ來ル所ヲ研鑽セントスル人々ノ資料ニ供セントスルニ在リ。

一、大正五年二月十八日彦根町長ハ彦根町立彦根圖書館ノ設立認可ヲ文部大臣ニ申請セシニ同四月二十五日認可セラレ五月五日日本縣知事ニ開館ヲ申報ス。同十二月二十六日日本縣知事ハ柳瀬銀藏ヲ館長ニ勝辨藏ヲ司書ニ北村壽四郎ヲ書記ニ任用セリ。爾來館員交迭數回ニ及ビシガ、北村書記ハ大正八年二月二十六日迄勤續シテ館務ニ勵精シ本館内容ノ基礎ヲ確立セリ。

一、大正十三年中川良藏氏ハ家兄故中川留三郎氏ノ遺志ニ依リ、其遺產金六萬五千圓ヲ彦根圖書館經營費トシテ寄附セラレタルヲ以テ、同年三月三十一日町會ニ於テ寄附金中四萬圓ハ基金トシ金貳萬五千圓ヲ以テ圖書館新築ノ議ヲ決セリ其後中川氏ヨリ更ニ金九千圓ノ寄附アリタリ本館建設。土地選定ニ關シテハ議論區々タリシガ遂ニ地ヲ大字四番町故陸軍少將岡見正美氏ノ邸趾ニ相シ大正十五年七月二日工事ニ着手シ同年八月二十七日上棟式ヲ行ヒ昭和二年一月二十日竣成昭和二年四月二十九日竣工式ヲ舉行セリ來賓ノ主ナルモノハ松平本縣學務部長、中村彦根高等商業學校長、早川本縣庶務課長、各種中等學校長、小學校長、筒井彦根測候所長、川端滋賀縣水產試驗場長、官公署長、篤志者、銀行會社代表者、新聞記者、隣接町村長、本町名譽職名望家其他特ニ本館ニ關係ヲ有スル者等百八十餘名ニシテ、式後京都帝國大學教授文學博士野上俊夫氏ノ「社會教育について」ト題スル有益ナル講演アリ多大ノ感動ヲ與ヘタリ、當日本町長ノ朗

讀セラレタル式辞左ノ如シ。

式 辞

彦根圖書館新築工成リ天長節ノ佳辰ヲトシ竣工式ヲ舉グルニ當リ知事閣下代理ヲ始メ來賓各位ノ貴臨ヲ辱クス洵ニ欣幸ノ至リニ禁ヘザルナリ

抑國家ノ隆替文化ノ消長ハ國民修養ノ如何ニ依存シ國民ノ修養ハ讀書講學ノ程度ニ職由ス方今圖書ノ刊行日ニ盛ニシテ汗牛充棟管ナラザルモノアリ須ク精選セル圖書ヲ蒐集シテ公衆研學ノ資ニ供セシコトヲ圖ラザルベカラズ是レ輓近圖書館運動ノ勃興セル所以ナリ

本町夙ニ茲ニ見ルアリ從來公會堂ノ一室ヲ割キテ圖書館ヲ設置シ公衆研學ノ要求ニ應ゼシト雖モ規模狭小ニシテ時勢ニ順應セザルノ憾アリキ偶々故中川留三郎氏幕末名士ノ血脈ヲ受ケ人文啓發ノ宿志アリ遺言シテ鉅萬ノ資ヲ圖書館費トシテ寄贈セラル本町其美譽ヲ納レ本館ヲ新築シ設備ヲ改善シ更ニ進ンデ必要ナル經費ヲ投ジ大イニ圖書館教育ノ發達ヲ圖ラントスルニ至ル寔ニ昭代ノ盛事ニシテ公衆ノ慶福ト謂フベキナリ

今ヤ世局ハ正ニ會通ノ運ニ際シ人文ハ恰モ更張ノ期ニ膺リ本町凡百ノ事業亦駸々乎トシテ發展ノ機運ニ向フヲ見ル吾人須ラク時勢ヲ遠觀シテ大イニ修養ニ努ムル所ナクンハアルベカラズ惟フニ圖書館ハ知徳ノ源泉タリ文化ノ寶庫タリ苟モ知識ヲ古今ニ求メ社會ノ進運ヲ裨補シ志ヲ當代ニ伸暢セン

トスル者宜シク此ノ源泉ヲ汲ミ此ノ寶庫ヲ探ルベキナリ庶幾クハ自今益々本館ノ活用ニ努メ小ニシテハ自己ノ人格ヲ向上セシメ大ニシテハ社會ノ文化ニ貢獻センコトヲ式ニ際シ聊卑見ヲ陳ベテ式辞トス

昭和二年四月二十九日

彦根町長 平塚分四郎

祝 辭

圖書館ハ一都市一町村文化ノ源泉ナリ社會教育機關トシテノ中樞ナリ故ニ其ノ克ク完備セルト然ラザルト其ノ克ク世人ニ利用セラル、ト否ラザルトニ由リ以テ其地方文化進展ノ程度ヲ測知シ得ベク其ノ土地人民ノ品格風尚ヲモ窺ヒ得ベシ

今次彦根町立圖書館新築工ヲ竣ヘ昭和第一回天長ノ佳節ヲ迎ヘタル吉辰ヲ以テ茲ニ開館ノ式典ヲ舉グルニ至リ輪奐ノ美ナル設備ノ整ヘル大都市ノ其レニ比シテ殆ンド遜色アルコトナシ是レ實ニ我が彦根文化ノ象徴トシテ寔ニ慶賀ニ堪ヘザルナリ惟フニ所藏ノ圖書ハ年ヲ逐フテ愈々多キヲ加ヘ内容實質ノ充實センコト亦當ニ日ヲ期シテ俟ツベキモノアラン

然レドモ圖書館ノ事業ハ設備ノ完成ト藏書ノ充實トヲ以テ其ノ能事了レリトナスベキニアラズ力メテ閱覽者ヲ此ニ吸引シ世人ヲシテ書ニ親シマシムルノ策ヲ劃スルト共ニ一般ノ讀者ヲ指導誘掖シテ其ノ知識趣味ノ向上發展ニ資スル所ナカルベカラズ由來地方ニ在リテハ圖書館設備ノ完成セルニ拘

ラズ之ヲ利用シテ益ヲ之ニ求メントスル者比較的少キノ憾アリ幸ニシテ本館ハ町ノ中央形勝ノ地ニ存在シテ通館ニ便ヨク加フルニ館長以下館員諸君皆其人ヲ得タレハ施設宜シキニ適ヒ閱覽者ヲシテ属厭セシムルモノコレアルベシ冀クハ地方人士般ニ本館ニ出入シテ本館ヲシテ圖書死藏ノ書庫タルニ至ラシメザランコトヲ本日ノ式ニ列シ些カ所懷ヲ抒ベテ祝辭トス

昭和二年四月二十九日

彦根高等商業學校長 中村健一郎

祝詞

維時昭和二年四月二十九日陽春清和草木咸雨露ニ惠マレテ發芽促進シ野ニ山ニ百花繚爛トシテ色ヲ競ヒ鳥囀リ魚躍ルノ好季而モ昭和聖代ノ初頭萬邦齊シク皇運ノ隆昌ト聖壽ノ無疆ヲ奉祝スル天長節ノ佳辰ヲトシテ爰ニ本町圖書館新築落成開館ノ盛典ヲ舉ラル不肖寵招ヲ蒙リ此末班ニ列リ祝意ヲ表スルノ光榮ヲ得タルハ洵ニ欣快トスル所ナリ

夫レ圖書ハ修徳開智ノ源泉之ヲ蒐集シテ公衆ニ供覽スルハ奎運ノ隆昌人文更張ノ捷徑ト謂フベク今ヤ百藝日ニ成リ萬花月ニ盛ナラントスルノ時ニ方リ本町出身ノ成功者中川留三郎君ノ遺志ヲ繼ギ令弟良藏君ハ曩ニ費途ヲ指定シテ巨額ノ資金ヲ寄附セラレ爾來本町ハ其意志ノ示ス所ヲ度リテ適地ヲ相シ細心ノ注意ヲ拂ヒテ審按企畫町會ノ議決ヲ經テ起工後豫定ノ進行ヲ告ケ本館及書庫其他ノ諸建造物等全ク竣了シテ器具器械ノ整備舊館ヨリ圖書ノ移換館長以下諸員ノ配置等殆ンド貽ス所ナク其

外觀ノ宏壯偉大ニシテ耐震火災ノ構造ヲ兼ネタル内部ハ採光換氣ノ周到ニ且輪奐ノ美ヲ盡セル等小都市ノ圖書館トシテハ蓋シ稀ニ見ルノ設備ト云フヲ憚ラザルナリ然レドモ時代ノ趨勢ハ峻々トシテ日ニ進ミ月ニ新ナル國是ヲ基トシ休止スル所ナキ現狀ニ鑒ミ圖書ノ整理保存ハ勿論新刊圖書ノ選擇設備ヨリ夜間ノ開館館外圖書ノ貸出冬期採暖ノ方法携帶品ノ取締等努メテ一般ノ向學心ヲ誘掖シ閱覽者ノ便利好感ヲ與ヘ以テ多數ヲ收容シ所期ノ目的ヲ達成セムトスルニハ更ニ一層ノ砥礪研鑽ヲ要スベク冀クハ將來益々本館設立ノ趣旨ヲ普及獎勵シテ文運ノ興隆ト地方ノ啓發ニ資セラレンコトヲ聊カ卑見ヲ述ベテ祝詞トス

彦根町會議長從五位勳五等 芝井富藏

工 事 報 告

曩ニ本町ニ於テ故中川留三郎氏ノ篤志ニ基キ圖書館新築ノ議成ルヤ其ノ建設場所ニ就テハ深甚ナル考慮ノ下ニ此ノ地ヲ以テ適當ト認メラレ先ヅ敷地二百十三坪三合ヲ金壹萬壹千七百參拾壹圓五拾錢ヲ以テ原甲次郎木下喜七木下元吉ノ三氏ヨリ買收シ其設計ニ對シテハ各地ノ新設圖書館ヲ視察ノ上充分ナル考究ヲ遂ゲ様式ヲ近代式ニ採レリ其概要ヲ舉グレバ本館ハ木造二階建瓦葺建坪六十六坪八合二勺餘階下ニ新聞雜誌閱覽室兒童閱覽室事務室特別室等ニ別チ書庫ハ鐵筋「コンクリート」造リ三階建陸屋根トシ建坪十五坪各階ニ木造書棚ヲ造附ケ圖書ノ格納ニ供シ特ニ通風採光ニ意ヲ用ヒ各

入口室ニハ防火扉ヲ取附ケ本館階上下出納室ヨリ廊下ヲ以テ連絡ヲ取り圖書出納ニ便ナラシム附属家ハ木造平家建瓦葺ニシテ建坪二十三坪八合七勺餘湯沸所使丁室物置便所等ニ區分セリ而シテ大正十五年六月十五日之ガ請負入札執行ノ結果金貳萬八千八百五拾圓ニテ長濱町下村勘七ニ落札翌七月二日關係者一同列席ノ上地鎮祭ヲ行ヒ直チニ工事ニ着手ス中途地質ノ關係上本館杭打地形ヲ變更シ書庫ノ基礎「コンクリート」ヲ増加シタル結果工費ニ金八拾壹圓貳拾六錢ノ減額ヲ來シ請負金額ヲ金貳萬八千七百六拾八圓七拾四錢ト改ム爾後工事ハ順調ニ進捗シ八月二十七日ニハ上棟式ヲ舉行シ引續キ十二月十九日ニハ工事ノ完成ヲ見ルニ至リ翌二十日町長以下各關係者立會ノ上竣工検査ヲ行ヒ同月二十七日日本町へ建物ノ引渡ヲ完了ス

此間本工事ニ従事セシ諸職工ノ延人員ハ土工六百六名大工一千二百三十二名石工五十名煉瓦工十名鍛冶工五十三名鋺力工三十五名瓦工八名塗工百四十七名左官三百十七名其他百五十七名合計二千六百十五名ニ達ス

以テ本年ニ入り追加工事トシテ裏門及板扉玄關前道路側溝鐵板取設ケ附属家渡廊下建具取附ケ構内砂利敷均シ等ヲ金四百五拾參圓四拾參錢ニテ請負人下村勘七氏ニ施行ヲ命ジ一月二十日全部之ガ完成ヲ告グ而シテ外觀ノ美ヲ添フベク樹木ノ植附ケヲ北川榮次郎氏ニ金百參拾七圓ヲ以テ實施セシメ次テ家具及裝飾工事ノ請負入札ヲ二月五日ニ施行シ家具ハ金壹千參百七拾圓ヲ以テ當町後藤健藏氏

ニ落札シ裝飾工事ハ京都市和田卯一郎氏ニ金五百圓ヲ以テ施工セシム電燈設備ハ配線工費金參百九拾參圓四拾壹錢ヲ當町ヨリ支出シテ宇治川水力電氣株式會社近江支店ノ施工ニ係リ器具一切ハ會社ノ寄附ニ依ルモノトス斯クシテ此等ノ工事モ遲滯ナク完了シ三月十六日ヨリ開館ヲナシ得ルノ運ニ到レリ

抑モ本工事ヲ起シテヨリ竣工ニ至ル間之ニ要セシ工費ノ累計敷地買收費共金四萬參千貳百拾七圓八錢日ヲ經ルコト實ニ九ヶ月此間何等不祥事ナク順調ニ工事ノ進捗ヲ告ゲ今日ノ成告ヲ見ルニ至リシハ主トシテ關係各位ノ多大ナル援助ト各請負人諸氏ガ施工上注意ノ周到ナルニ由ル所ナリトス本日茲ニ竣工式ヲ舉行セラル、ニ當リ工事ノ概要ト經過トヲ謹デ報告ス

昭和二年四月二十九日

彦根町技術員 野 瀬 貴 一

祝 辭

時維レ昭和二年四月二十九日恰モ聖上陛下御登極後最初ノ御誕辰ナル天長ノ佳節ニ當リ本館竣工ノ祝典ヲ舉ゲラル何タル重ネ々々ノ慶事ゾヤ

館外ヲ展望スレバ百花爛熳トシテ妍ヲ競ヒ百鳥聲ヲ和シテ囀ル譟ツテ館内ヲ覗ヘバ百科ノ書ヲ繙キ百卷ノ圖ヲ展シ己ガ好ム所ノ研鑽ノ資料ヲ吸收ス豈快ナラズヤ

夫レ本館ハ本町出身中川君ノ遺志ニ依リ君ノ深キ愛郷心ト厚キ慈善心トニ依リ斯ノ建設ヲ見ルニ至

リシハ茲ニ改メテ君ニ感謝セザルヲ得ズ

本館ニ集フノ士ヨ冀クハ本館ヲ愛シ本館ヲ利用シ以テ設立者ノ遺志ヲ尊重セラレンコトヲ斯クシテ
地方人士ノ文化上ニ及ボス効果ヤ蓋シ尠ナラザルベシ

日新月歩ノ進運ニ際シ館内設備ノ完成ハ逐次當事者ノ配慮ニ俟ツノ外ナシト雖モ殆ンド國內有數ノ
圖書館タルノ面目ヲ表ハスノ期ハ蓋シ近キニアラン

茲ニ本館竣工式ニ會ヒ謹ミ敬ヒ聖上陛下ノ彌榮ヲ奉祝シ併セテ本館ノ隆昌ヲ祈ルト爾云

昭和二年四月二十九日

彦根町會議員 山 田 種 吉

挨拶之辭

本日本館ノ竣工式ヲ舉行セラル、ニ該リ此ノ盛典ニ列シ得タルハ光榮ノ至リト存ジマス

具サニ館ノ内外ヲ拜見セシニ基礎ノ堅牢ナル構造ノ宜シキヲ得タル尙且設備萬端完全デ毫モ欠點ノ
ナイコトヲ覺エマス翻ツテ思ヒマスニ亡兄留三郎在世中久シク圖書館ノ設立ニ熟慮中不幸病魔ニ罹
リ遂ニ本志ヲ貫徹セズシテ死亡シマシタ茲ニ於テ曩ニ其ノ遺産ノ幾分ヲ本町ニ提供シタルニ幸ニ當
事者快然之ヲ許容セラレ爾來幾星霜此間土地ノ選擇及設計等ニ非常ナル御配慮ヲ煩ハシタ結果今日
落成式ヲ告グルコトニナリマシテ亡靈ノ地下ニ於テ瞑スルト共ニ繼承者良藏ノ歡喜極リアリマセン
聊カ所感ヲ述ベマシテ御挨拶ニ代ヘマス

昭和二年四月二十九日

亡留三郎繼承者 中 川 良 藏

挨拶之辭

我が彦根圖書館ハ今上天皇陛下第一回天長節ノ佳辰ヲトシ茲ニ竣工式ヲ舉ゲルコトニナリマシタ誠
ニ慶賀ノ至リニ堪ヘマセン知事閣下代理ヲ始メ幾多貴賓ノ臨場ヲ蒙リマシタコトハ本館長トシマシ
テモ非常ナル光榮ヲ感ジ深ク謝意ヲ表スル次第デアリマス

古來圖書館ハ貴重ナル圖書ノ貯藏庫デアルト思ツテ居マシタ此ハ鎖國時代ニ適シタ舊思想デアリマ
ス次ニハ知識研磨ノ自修室デアルト考ヘルヤウニナリマシタ是ハ稍々進歩シタ思想デアリマスガ
ヤハリ外國文明ノ模倣時代ニ行ハレタ舊思想ニ過ギマセン現代ニ於ケル圖書館ハ唯々智育上ノ機關
タルニ止マラナイデ智情意ノ三者ガ渾然トシテ融和統一セル優良ナル人格ヲ養成スル場所デアルト
シ更ニ進ンデ社會ノ中心機關デアルト考ヘルヤウニナリマシタ又世間デハ往々圖書館ヲ以テ學校教
育ノ補助機關デアルトノミ思ヒ學校教育ノ繼續機關デアルトノミ思フ者モ少クアリマセン是亦時代
錯誤ノ甚シイモノデアリマス圖書館ハ實ニ智德ノ源泉生活ノ要素デアリマシテ學校ニ在ルト否トニ
拘ラズ老少男女ヲ問ハズ何人ニモ之ガ利用ヲ希望シ從應スルモノデ人間生活ノ全体ニ涉リ終身的教
育機關トシテ獨得ノ使命ヲ有ツテ居ルモノデアリマス「圖書館は誰でも入學の出来る大學校である」
トカ「圖書館は民衆の大學なり」トカイフ語ハ現代ノ圖書館思想ヲ有力ニ言表セルモノデアリマス

又世人ハ動モスレバ教育トイヘバ學校バカリノ事ヲ思ヒ圖書館ヲ忘レルコトガアリマス此ハ實ニ時代後レノ甚シイモノデ文明諸國ハ何レモ圖書館ヲ以テ學校教育ト相併ンデ教育ノ目的ヲ達成スベキ大切ナ機關デアルトシテ居リマス

近時圖書館ハ非常ナル勢ヲ以テ各地ニ勃興シツ、アリマスコレハ文化進展上必然ノ徑路デアリマス特ニ世界大戰以來國際關係益々紛糾シ思想界ハ混沌トシテ歸着スル所ヲ知ラヌ不安ノ状態ニアリマス此間ニ處シテ吾國ハ世界ノ強國タル地位ヲ辱シメズ人類ノ幸福世界ノ平和ニ貢獻スベキ使命ヲ全ウスルニハ根本問題トシテ各個人ノ文化的價値ノ充實發展ヲ圖ラテバナリマセン況ンヤ我國ハ今ヤ將ニ普通選舉ヲ實施シヨウトスル機會ニ際シテ居リマス單ニ政治上カラ考ヘマシテモ圖書館教育即民衆教育ヲ振興セシメルコトハ焦眉ノ急デアルト思ヒマス熟々政治ノ變遷ヲ考ヘマスニ最初ハ哲人政治時代デ次ハ有産階級國政參與時代デ尋デ普選時代ト進ミ行ク様ニ思ヒマス哲人政治時代ハ門閥德望識見手腕等ヲ備ヘタ天才的爲政者ガ必要デアリマシテ一般民衆ハ唯命是從デ從順勤勉ノ美德ト義勇奉公ノ精神サヘアレバ十分デアリマス有産階級ノ參政時代ハ一定ノ地位財産ヲ有スル者ガ國政ニ參與シマス併シ其參政資格ハ主トシテ本人ノ努力ニ依ツテ決定セラレルノデアリマシテ機會均等主義ヲ執リ義務教育ヲ勵行シ各人ヲシテ平等ニ向上發展ノ基礎ヲ造ラシムルコトヲ原則トシマス即今日ノ我國ハ正ニ此ノ時代ニ相當シテ居リマス普選時代ニナリマスト機會均等ニ依ル義務教育デ滿

足シナイデ大イニ國民全体ノ智徳ヲ向上サセテ穩健ナル批判力ヲ養フコトガ必要デアリマス何トナレバ普選ニナリマスト動モスレバ詭激ノ辯ヲ弄シテ民衆ヲ煽動スル機會ガ多クナツテ國家ヲシテ挽回スベカラザル危地ニ陥イレルコトガ往々アルカラデアリマス是レ圖書館教育ノ必須ナル所以デアリマス其他人生々生活上如何ナル方面カラ考ヘマシテモ圖書館ノ社會教育上肝要ナル地位ヲ占メテ居ルコトハ歷々證明スルコトガ出來マス

此機運ニ際シ故中川留三郎氏ハ本町圖書館經營費トシテ多額ノ資金ヲ寄附セラレタコトハ其深意付度ニ難カラズ其ノ卓見敬服ノ外アリマセン本町亦之ヲ動機トシテ在來圖書館ノ改善發達ヲ計劃スルコトニナリマシタ此ノ企ハ本町民ノ精神聯盟ノ結果ト見做スベキモノデ新時代ニ順應シ大彥根建設ノ前驅トシテ聰明ナル施設デアルト信ジマス不肖圖ラズモ乏ヲ本館長ニ承ケマシテ此ノ大任ニ辜負センコトヲ懼レマスドウカ將來大方諸賢ノ援助ヲ仰ギ拮据經營公共圖書館ノ本質ヲ發揮スルヤウ努力シタイト存ジマス式ニ臨ミ聊卑見ヲ述ベテ御挨拶ニ代ヘマス

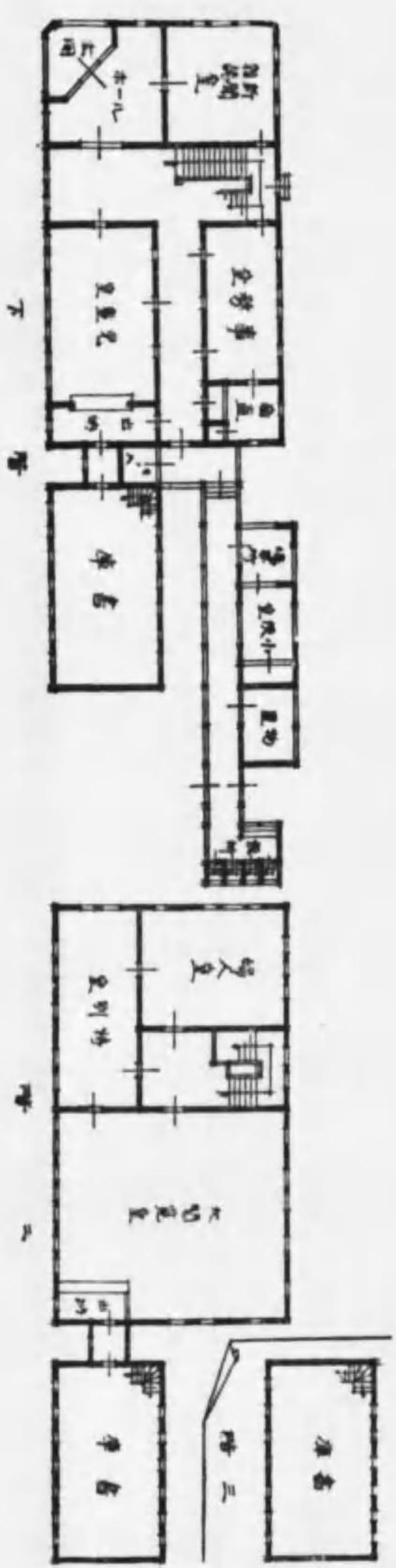
昭和二年四月二十九日

彥根圖書館長 松原廣吉

當日ハ中川留三郎氏ノ祖父中川祿郎氏(漁村)ノ遺墨ヲ始メ名士ノ書畫及稀觀書展覽ヲナシ一般ノ縱覽ヲ許セリ

新館工事ノ概要左ノ如シ

- (一) 位 置 彦根町大字四番
- (二) 敷 地 貳百拾參坪參合
- (三) 各室名稱 新聞雜誌閱覽室、事務室、兒童室、婦人室、大閱覽室、應接所兼讀書相談室、使丁室、物置、書庫
- (四) 建 坪 本館二階建六拾六坪八二一五、書庫三階建拾五坪、附屬家平家建貳拾參坪八七五
- (五) 建物構造 本館ハ木造二階建ニシテ腰煉瓦積外部ラス張人造石及モルタルスタッコ塗トシ内部木摺壁床總体練革床床塗リ階上床ニハ音響止メノ裝置ヲナシ屋根瓦葺新聞雜誌室ハ特ニ床人造石塗リトシテ出入ニ便ナラシム
書庫ハ鐵筋コンクリート造三階建屋根陸屋根トシ、外部ハ本館ニ倣ヒ仕上ケヲナシ内部各階ニ木造書棚ヲ取設ケ部門別ニ圖書ヲ格納シ得ルモノトス而シテ階上階下圖書出納室ヨリ廊下ヲ以テ連絡セシメ窓入口ニハ各防火鐵扉ヲ建込ム
附屬家ハ木造平家建屋根瓦葺眞壁仕上ゲ外部板張リトス
- (六) 工事費 總計四萬參千貳百拾七圓八錢
 内 金壹萬壹千七百參拾壹圓五拾錢 敷地買收費
 金參萬壹千四百八拾五圓五拾八錢 建築其他諸費



第二、館則及諸規程

彦根圖書館規則

第一條 本館ハ博ク圖書記録新聞雜誌等ヲ蒐集シテ公衆ノ閱覽ニ供シ兼テ附帶事業トシテ社會教育ニ關スル種々ノ施設ヲ爲シ以テ地方文化ニ貢獻スルヲ以テ目的トス

第二條 本館ニ左ノ職員ヲ置ク

館長 一名 司書 一名

書記 若干名

前項ノ外必要ニ應ジ事務員ヲ置クコトヲ得

第三條 館長ハ館務ヲ總理シ所屬職員ヲ統督ス

第四條 司書ハ圖書記録ノ整理保存及閲覧ニ關スル事務ニ従事シ館長事故アル時ハ其職務ヲ代理ス

第五條 書記並ニ事務員ハ館長ノ命ヲ受ケ庶務ニ従事ス

第六條 本館ノ圖書ヲ閲覧セントスル者ハ本則並ニ別ニ定ムル閲覧心得ヲ遵守スベシ

第七條 本館圖書ノ閲覧ハ無料トス

但シ特別ノ施設ニ對シテハ閲覧料ヲ徴取スルコトアルベシ

第八條 本館ノ休日左ノ如シ

但臨時休館スルコトアルベシ

毎週月曜日

大祭祝日

曝書 九月十月ノ内凡一週間

十二月二十九日ヨリ翌月五日マデ

第九條 開館時限左ノ如シ

但時宜ニ依リ伸縮スルコトアルベシ

四月一日ヨリ 午後一時ヨリ午後九時マデトシ日曜日ニ限り午前九時ヨリ午後五時迄トス

十月三十一日マデ 午後一時ヨリ午後八時マデトシ日曜日ニ限り午前九時ヨリ午後四時迄トス

十一月一日ヨリ 午後一時ヨリ午後八時マデトシ日曜日ニ限り午前九時ヨリ午後四時迄トス

三月三十一日マデ

第十條 左記ニ該當スル者ハ入館ヲ許サズ

一、精神病患者

二、傳染病患者並ニ他人ノ嫌疑スル疾患患者

三、泥酔者

四、圖書閲覧ノ目的ヲ有セザル者

五、其他係員ニ於テ不都合ト認ムル者

第十一條 本館圖書ハ左記圖書ヲ除キ別ニ定ムル規定ニ依リ館外貸出ヲ許スコトアルベシ

貴重ナル圖書 新着圖書 辭書類 繪畫圖表類 教科書參考書 大冊物及非賣品 新聞雜誌官公報類

希望者多數ノモノ 委託圖書

第十二條 本館ハ私人又ハ団体ヨリ委託セントスル圖書ニシテ有益ト認ムルモノニ限り之ニ應ズルコトアルベシ

第十三條 本館ハ有益ト認ムル圖書ノ寄贈ヲ受クルコトアルベシ

第十四條 前二條ニ依ル其書ノ送料ハ特別ノ場合ヲ除キ寄贈者又ハ委託者ノ負擔トス

第十五條 本館ニ於テ委託ヲ受ケタル圖書ハ別段ノ契約アル場合ノ外本館所藏ノ圖書ト同様ニ取扱フモノトス

第十六條 委託圖書ニシテ火災盜難其他不可抗力ニ依ル損害ヲ受クルコトアルモ本館ハ其責ニ任ゼズ

第十七條 本則施行ニ必要ナル細則ハ館長之ヲ定ム

彦根圖書館圖書閱覽細則

一、館内 閱 覽 心 得

第一條 館内ニ於テ圖書ヲ閱覽セントスル者ハ閱覽用紙ニ指定事項ヲ記入シ閱覽證ト共ニ圖書ヲ受取ルベシ

第二條 男子ハ閱覽人ハ普通閱覽室女子ノ閱覽人ハ婦人閱覽室待待者又ハ特ニ館長ノ許可ヲ受ケタル者ハ特別室兒童ハ兒童閱覽室ニ於テ閱覽スベシ

第三條 同時ニ借覽シ得ベキ圖書ハ兒童ハ一冊其他ハ三冊以内トス 但特待者ハ此限ニアラズ

第四條 閱覽室ニ於テハ音讀談話喫煙飲食其他喧騒ノ行爲ヲ許サズ

第五條 閱覽者ハ圖書ノ轉貸ヲナスベカラズ

第六條 圖書ヲ紛失毀損若クハ汚損シタル者ハ相當辨償ノ責ニ任ズベキモノトス

第七條 圖書ノ閱覽ヲ終リタルカ若クハ閉館時限ニ達シタル時ハ直チニ閱覽證ヲ添附シ圖書ヲ返納スベシ

第八條 新聞雜誌ハ當該備附ノ室ニ於テ隨意閱覽スルコトヲ得閱覽後ハ正シク原位置ニ復セシムベシ
但特殊雜誌ノ閱覽ハ第一條ノ手續ヲナスベシ

第九條 本館ノ圖書ヲ閱覽セザル者又ハ閱覽心得ヲ遵守セザル者ハ館内ニ在ルコトヲ禁ズ

二、館外 閱 覽 心 得

第十條 本館圖書ヲ館外ニ帶出セントスル者ハ圖書帶出閱覽請求用紙ニ指定事項ヲ記入シ帶出閱覽證ト共ニ圖書ヲ受取ルベシ

第十一條 同時ニ帶出シ得ベキ圖書數ハ一冊ヲ常例トシ帶出期間ハ一週間以内トス 但シ団体トシテ帶出セントスル場合ノ冊數並ニ期間ハ其都度之ヲ定ム

第十二條 帶出期限至ルモ返納セザル時ハ督促ニ要スル費用ヲ徴シ爾後閱覽ヲ拒絕スルコトアルベシ

第十三條 閱覽圖書ハ鄭重ニ取扱ヒ萬一毀損又ハ亡失シタル時ハ相當辨償セシムルモノトス

第十四條 帶出圖書ハ他人ニ轉貸スルコトヲ得ズ

第十五條 借覽人住所ヲ變更シクル時又ハ圖書ヲ亡失シタル時ハ直チニ本館ニ届出ヅベシ

彦根圖書館巡廻文庫規程

第一條 巡廻文庫ハ學校官公衛會社銀行床屋青年團其他ノ修養團體並ニ館長ニ於テ特ニ必要ト認メタル向ニ廻附シ弘ク公衆ノ閲覽ニ供スルモノトス

第二條 巡廻文庫ノ交附ヲ受ケントスル時ハ代表者ヨリ左記請求書ヲ本館ニ差出スベシ
巡廻文庫請求書

貴館規則遵守可致ニ付本校(何々)へ巡廻文庫御廻附相成度此段請求候也

昭和 年 月 日 何々代表者氏名 印

彦根圖書館長氏名殿

第三條 巡廻文庫ハ圖書目錄、閲覽簿等ヲ添ヘ之ヲ送附ス

第四條 巡廻文庫ヲ受取リタル時ハ直チニ左記受領證ヲ差出スベシ

巡廻文庫受領證

一、巡廻文庫 第何號

一、閲覽簿 何冊

一、其他何々

右正ニ受領候也

昭和 年 月 日 何代表者住所氏名 印

彦根圖書館長氏名殿

第五條 巡廻文庫ノ使用ハ無料トス

第六條 巡廻文庫ノ使用期間ハ廻附ヲ受ケタル日ヨリ一ヶ月間トス 但都合ニ依リ伸縮スルコトアルベシ

第七條 巡廻文庫ノ管理者ハ廻附ヲ受ケントスル巡廻文庫ノ編成ニ就キ豫メ希望圖書名又ハ種類名ヲ申出ヅ

ルコトヲ得

第八條 巡廻文庫ハ一定ノ閲覽所ニ於テ閲覽セシムルモノトス 但必要ナル場合ハ適當ナル方法ニ依リテ彦

根在住者ニシテ身元確實ナル者ニ限り帶出閲覽セシムルコトヲ得其ノ帶出期間ハ三日以内トシ冊數ハ

一冊トス

第九條 閲覽所ニ於テ閲覽セシムルモノニハ閲覽所閲覽簿ニ帶出者ニハ帶出閲覽簿ニ規程ノ事項ヲ記入セシ

ムベシ

第十條 巡廻文庫ハ請求者之ガ管理者トナリ使用中亡失又ハ毀損シタル時ハ之ヲ辨償スルモノトス

第十一條 巡廻文庫ハ使用期間滿了後遲滞ナク添附書類ト共ニ本館ニ返還スベシ

第十二條 巡廻文庫ノ受渡取扱ハ本館執務時間中トス

第十三條 巡廻文庫ノ返還ヲ受ケタル時ハ本館ヨリ直チニ受領書ヲ交附ス巡廻文庫ノ圖書ニ亡失毀損等アリ

タル時ハ其際之ヲ處理スルモノトス

第十四條 本規程ハ昭和三年十一月ヨリ施行ス

第十五條 第八條ノ但書ハ當分ノ内之ヲ適用セズ

第三、藏書

彦根圖書館藏書統計

昭和四年十二月三十一日現在

部	門	和漢書	洋書	合計
第〇門	總記	二、一五七 _冊	二七 _冊	二、一七八 _冊
第一門	宗教、哲學	一、〇〇〇	六	一、〇〇六
第二門	教 育	一、〇六七	一	一、〇六七
第三門	文學、語學	四、八四三	一七	四、八六〇
第四門	歴史、地誌、風俗	二、六〇〇	五	二、六〇五
第五門	政治、法律、經濟 社會、統計、家政	一、五五一	六	一、五五七
第六門	理學、數學、醫學	六八五	六	六九一
第七門	工學、海事、兵事	三五七	二〇	三七七

第八門	産業、交通、通信	四五八	一	四五九
第九門	美術、諸藝、競技	四九四	四	四九八
御大典 記念	開國文庫	一、三六二	一	一、三六二
合 計		一六、五七四	九二	一六、六六六
新聞雜誌		一、〇一二	一	一、〇一二
總 計		一七、五八六	九二	一七、六七八

第四、圖書目錄及分類

圖書目錄ハ目下カード式目錄ヲ採用ス將來帳簿式目錄ヲ併用セントス

但シ御大典記念文庫、三浦文庫ハ帳簿式目錄ヲ編製セリ。本館圖書ノ分類ハ十進分類法ニ依ル即チ全体ノ

圖書ヲ十門ニ分チ各門ヲ再ビ十部ニ分チ更ニ各部ヲ十日ニ細別シ順次十分進行ヲナスモノナリ。本館ニテハ藏書未ダ二萬ニ滿タザルヲ以テ第二位程度ニ止メタリ

第五、圖書閱覽ノ狀況

圖書閱覽ニ關スル各室配備左ノ如シ

(一) 新聞縱覽室

之關ヨリ土足ノ儘ニテ自由ニ出入シ各種新聞紙ヲ一般人ニ縱覽セシム

(二) 兒童閱覽室

(三) 男子閱覽室

(四) 婦人閱覽室

閱覽出納ノ手續ハ兒童書並ニ新刊圖書ハ開架式閱覽法ヲ實施シ自ラ書架ニ接シテ自由ニ探査セシメ其他ノ圖書ハ書庫ニ藏シテ請求ニ應ジ提供スルコトトセリ

尙ホ前記規程ニ依リ館外帶出閱覽ヲモ許可スルコトトセリ

昭和四年一月ヨリ同十二月末迄ノ開館日數ハ二百九十三日ニシテ閱覽延人員ハ新聞室閱覽者ヲ除キ館内館外ヲ合セテ男八萬九千六百四十三人、女一萬六千〇〇一人、計十萬五千六百四十四人、閱覽延冊數男十二萬四千五百四十三冊、女一萬九千五百九冊、計十四萬四千五十二冊ニ達ス。即一日男女平均延人員三百六十人餘一日平均延冊數四百九十一冊餘ニ相當ス。若夫レ本統計ニ入ラザル新聞雜誌閱覽ヲ加算センカ更ニ多數ニ達スベキナリ。今各部門別閱覽圖書統計、閱覽人職業別統計、閱覽人住所別統計ヲ示セバ左ノ如シ。但シ何レモ延計算トス。

彦根圖書館覽閱圖書職業別統計

自昭和四年一月至同年十二月

部 門	學 生	教 員	神 官	記 者	醫 師	辯 護 士	軍 官	公 吏	實 業 家	銀 行 員	會 社 員	兒 童	無 職	其 他	合 計
第〇門總 記	(男)九、九九九 (女)八二八	四九七 五六六	三六冊	三九五冊	四、九九五 五六七	七、一五四 三三三	三、〇五二 二二五	一、三九六 七、〇〇二	一、三八七 六〇二	九八四 一〇、七六三	四二、四九七 一〇、七六三				
第一門宗教哲學	(男)一、七六三 (女)七〇	四四七 六九	一三三冊	一一冊	二、七三三 一三八	二、七五一 二四四	一、七七一 八〇	一、三八〇 三三七	一、二六六 二二五	二四八 四〇	一〇、一六七 八七五				
第二門教 育	(男)八六九 (女)一三一	三三七 五三	一三冊	二五冊	五八五 三二	五三〇 七二	二四二 一	一七〇 五四	二二四 五四	二、九三〇 三九五					
第三門文學語學	(男)一四、〇六八 (女)二、二七九	二七一 一五八	一七冊	一八三冊	一、七九九 八〇	四、七三四 五一九	一、三八〇 三三七	一、二六六 二二五	一、五〇〇 四九	一〇、三三三 一、〇九〇					
第四門 歷史地誌 風俗	(男)三、五三一 (女)六〇七	一、四六〇 四六	一八冊	一三冊	九四五 一	一、五八六 一五一	八二四 二二六	四六七 二二	一、五〇〇 四九	一〇、三三三 一、〇九〇					
第五門 政治法律 經濟社會 統計家政	(男)四、一九〇 (女)一八四	五一八 一六四	一六冊	一三〇冊	三、〇七三 三三	四、六三二 二二三	八四二 一〇八	三三五 二二八	三六四 一〇八	一四、〇〇八 九四七					
第六門 理學數學 醫學	(男)五、三九七 (女)六四三	二六二 五八	一冊	一四八冊	四二二 一	一、〇五六 八〇	二三五 一	四七八 一七	七、九二六 八〇三						

新聞雜誌	第七門 工學海事		第八門 產業交通		第九門 美術諸藝		御大典開國文庫		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
自由閱覽ヲ許シ統計ニ算入セズ一ケ年閱覽數萬人ニ達スベシ	九四八	九	二七四	九	七六八	四三九	一八	一	一、二七
新聞雜誌	二一七	一	二一八	一	四〇	八七	一	一	二一七
合計	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
自由閱覽ヲ許シ統計ニ算入セズ一ケ年閱覽數萬人ニ達スベシ	九四九	一	四四九	一	二二七	四三	一	一	一、二二
新聞雜誌	二八二	一	二三八	一	四四	二四	一	一	二八二
合計	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
自由閱覽ヲ許シ統計ニ算入セズ一ケ年閱覽數萬人ニ達スベシ	一五六	一	三〇〇	一	二二三	一	一	一	一五六
新聞雜誌	八九	一	四八	一	一	一	一	一	八九
合計	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
自由閱覽ヲ許シ統計ニ算入セズ一ケ年閱覽數萬人ニ達スベシ	二、四六九	一	六、三九一	一	三、二四	一	一	一	二、四六九
新聞雜誌	二七	一	八〇	一	一	一	一	一	二七
合計	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
自由閱覽ヲ許シ統計ニ算入セズ一ケ年閱覽數萬人ニ達スベシ	二、四六九	一	六、三九一	一	三、二四	一	一	一	二、四六九
新聞雜誌	二七	一	八〇	一	一	一	一	一	二七
合計	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
自由閱覽ヲ許シ統計ニ算入セズ一ケ年閱覽數萬人ニ達スベシ	二、四六九	一	六、三九一	一	三、二四	一	一	一	二、四六九
新聞雜誌	二七	一	八〇	一	一	一	一	一	二七
合計	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
自由閱覽ヲ許シ統計ニ算入セズ一ケ年閱覽數萬人ニ達スベシ	二、四六九	一	六、三九一	一	三、二四	一	一	一	二、四六九
新聞雜誌	二七	一	八〇	一	一	一	一	一	二七
合計	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一

彦根圖書館閱覽人住所別統計

住所名	男		女		合計
	人	員	人	員	
彦根町	八七、七二九	一〇三、五二一	一五、七九二	一〇三、五二一	一〇三、五二一
上郡	一、三〇七	一四九			一、四五六

自昭和四年一月至昭和四年十二月

本館創立以來圖書閱覽狀況累年比較統計

年度	閱覽人員		閱覽冊數	
	男	女	冊	數
大正五年	七、四七五	六、九九三	一〇五、六四四	一六六
同 六年	六、四一四	三、四七七	一〇五、六四四	一六六

同	七年度	一一、六六七	二五、三三九
同	八年度	一三、九七四	一四、〇〇〇
同	九年度	一二、〇〇七	三三、六七七
同	十年度	一二、八九九	二八、三五八
同	十一年度	一二、五二一	三一、二〇二
同	十二年度	一一、八一三	一五、二四〇
同	十三年度	一五、四〇八	三三、一五四
同	十四年度	一七、五八八	三〇、五九八
同	十五年度	二五、五三一	二七、三六三
昭和	二年度	四〇、六六八	五一、五九六
同	三年度	五七、四七四	七九、五三四
同	四年度	八七、八六六	一一九、五九七
(内) 彦根町 八六、四二七		其他 一、四三九	

(備考)昭和四年度ハ四月ヨリ十二月末迄ノ統計ニシテ前年度ニ比シ既ニ人員三萬三千九百九十二人閱覽冊數四萬六十三冊ヲ超過セリ本年度末ニ至ラハ人員十一萬人冊數十五萬冊ヲ數フルニ至ルベシ因ニ昭和二

年度ヨリハ新聞雜誌閱覽室ニ於ケル人員ハ統計ニ算入セズ該閱覽室ニハ開館時間中殆ンド人影ヲ絶タザルヲ以テ其數毎年數萬ニ達スルナルベシ此ノ如ク統計上新聞雜誌閱覽ヲ除クモ尙昭和二年四月新館移轉以來逐年圖書閱覽數ノ増加顯著ナルヲ見ル

第六、經 費

一金五千八百五拾圓 昭和四年度圖書館費

- (一) 給 料 貳千五百九拾六圓
 - 館長給料 千 圓
 - 司書給料 六百參拾六圓
 - 書記給料 九百六拾圓
- (二) 雜 給 六百九圓
 - 旅 費 百 圓
 - 使 丁 給 參百八拾四圓
 - 賞 與 百貳拾五圓
- (三) 需 用 費 貳千五百四拾五圓

恩給基金納付金	貳拾六圓
備品費	貳百九拾八圓
圖書費	壹千百五拾圓
消耗品費	六百九拾六圓
印刷費	百圓
通信運搬費	百貳拾圓
賄費	五拾五圓
雜費	九拾九圓
(四) 修繕費	百圓
修繕費	百圓

第七、館員

昭和五年一月現在

就職年月日	職名	氏名
昭和二年二月九日	館長	松原廣吉
大正十五年二月十日	書記	成宮與惣次郎

昭和三年四月二十一日 書記 氏家興
 昭和四年五月二十四日 書記心得 木村富治郎
 昭和四年六月三十日 同 佐藤春榮
 因ニ現職員ノ外創立以來館長若クハ館長事務取扱ヲナセシ諸氏專任館員トシテ圖書館事務ニ從事セシ諸氏ヲ舉グレバ左ノ如シ

一、館長又ハ館長事務取扱

自大正五年十二月二十六日	町長	柳瀬銀藏
自大正六年七月八日	同	石橋彦三郎
自大正六年七月九日	同	安居喜造
自大正八年二月二十日	同	渡邊九一郎
自大正十年一月三十日	同	堀部久太郎
自大正十三年二月二十六日	同	平塚分四郎
自大正十四年四月十四日	同	
自大正十四年七月二十八日	同	
自大正十五年八月三十一日	同	
自大正十五年十月五日	同	
至昭和二年二月八日	同	

一、圖書館專任司書並書記

自大正五年十二月二十六日	書記	北村壽四郎
自大正八年十二月二十八日	同	濱野鐵藏
自大正九年二月二十六日	同	村山長贊
自大正十一年二月二十七日	同	岡崎祐業
自大正十一年一月十二日	同	岡崎祐業
自昭和二年三月三十一日	司書	芳谷有道
自昭和三年三月三十一日	同	芳谷有道
自昭和二年三月三十一日	書記心得	鈴木一子
自昭和四年五月二十四日	同	鈴木一子
自昭和三年八月一日	嘱託	朝見辰一
自昭和四年二月五日	同	朝見辰一

第八、寄贈

昭和四年中本館ニ寄附又ハ貸附セラレタル品目左ノ如シ茲ニ特記シテ其好意ヲ感謝ス

書名	寄贈者名	發行回數	光	一燈園宣光社	月一回
滋賀農報	滋賀縣農會	月一回	湖畔の聲	湖聲社	同
南洋協會雜誌	南洋協會	同	通俗衛生	大阪府衛生會	同
博愛	博愛發行所	同	湖國	湖國社	同
新天地	南滿洲鐵道株式會社	同	度量衡	日本度量衡協會	同
大阪商工會議所月報	大阪商工會議所	同	海防	海防義會	同
滋賀縣氣象月報	彦根測候所	同	作興	講道館文化會	月一回
眞宗	大谷派本願寺	同	經濟の日本	經濟の日本社	同
高野山時報	高野山時報社	月三回	鎌田共濟會雜誌	鎌田共濟會	同
華頂	華頂文社	月一回	空腹祭	空腹祭發行所	同
金光教青年	金光教青年會聯合本部	同	人生創造	人生創造社	同
共濟	滋賀縣昭和會	月一回	經營研究	經營研究社	同
愛知商工	愛知縣商品陳列所	時々	ぬかご	ぬかご社	同
同人	同人社	月一回	友園	友園發行所	同
道の友	天理教道友社	月二回	十六會	伏見十六會	同

人道	人道社	同	隣人の友	隣人の友社	同
彦根教報	彦根キリスト教會	時々	實用新案公報	特許局	每週二回
通商彙報	大阪府立商品陳列所	月二回	會報	大阪市御藏跡圖書館	會内毎月
中外財界	中外商業新報社	月一回	特許公報	更張	每週二回
海の旅	日本郵船近海郵船	時々	商標公報	同	每週一回
印刷雜誌	大阪出版社發行	同	海外經濟事情	外務省通商局	同
健康への途	大阪毎日新聞社	同	近江と人	近江人協會北村壽四郎氏	月一回
教會時報	教會時報社	月一回	國際事情	外務省情報部	月二回
太湖	太湖社	同	中央園藝	中央園藝社	月一回
葡萄樹	葡萄樹社	同	サンデー毎日	廣瀬繁次氏	每週一回
教化の資料(第一輯ヨリ第七輯マデ)	文部省	同	週間朝日	小林榮太郎氏	同
教化資料(第一輯ヨリ第四輯マデ)	財團法人中央教化團體聯合會	同	アサヒスポーツ	同	同
第一通信	第一通信社	月一回	アサヒグラフ	同	同
電氣旬報	電界社	月三回	昭和新聞	昭和新聞社	毎日
太陽堂月報	太陽堂月報社	月一回	彦根日報	彦根日報社	同

新愛知新聞	新愛知新聞社	同	九州帝國大學新聞	同大學々友會新聞部	時々
江州中央新聞	江州中央新聞社	同	立憲新聞	立憲新聞社	同
大阪時事新報	大阪時事新報社	同	養正時評	養正時評社	月三回
江州毎日新聞	江州毎日新聞社	同	湖國家庭新聞	湖國家庭新聞社	月一回
家庭時事	家庭時事社	同	和漢書	木村誠一氏	二百卅八冊
京都帝國大學新聞	京都帝國大學學友會新聞部	時々	現代大衆文學全集	若林庄太郎氏ヨリ委託	

第九、施設事項

昭和二年四月新館ニ移轉後普通圖書閱覽ノ外附帶事業トシテ施設セシ事項左ノ如シ

(一) 讀書會

一般讀者會ヲ開催シテ近代圖書館ノ使命ニ就キテ講話シ圖書閱覽ヲ勸奨セリ

(二) 讀書會

本館ノ圖書閱覽ヲ兼テ座談會ヲ開催シ會員相互知識ノ交換ヲ行ヒ時ニ講演會ヲ開キ一般ニ公開スルコト、セリ昭和四年中開會五回ニ及ブ該趣意書並ニ會則左ノ如シ

彦根讀書會趣意書

吾人ハ月ニ進ミ日ニ新ナルベク生涯修養ヲ怠ツテハナリマセン之ガ爲ニハ圖書ハ缺クベカラザル修養ノ要素デアリマス惟ウニ圖書ハ人類ノ精神的總記録デアリマシテ人間ノ精神活動ニ依ツテ産ミ出サレタ有ユル財寶ガ此ノ中ニ蓄積サレテアリマスカラ此ノ圖書ヲ有効ニ使用シマスレバ小ニシテハ個人發展ノ推進機トナリ大ニシテハ文化向上ノ原動力トナリマストコロガ此ノ如ク有益ナル圖書モ個人ノ力ヲ以テ多方面ニ涉リ之ヲ購入スルコトハ中々容易ノ業デアリマセン然ルニ圖書館ニハ百般ノ圖書ヲ蒐集シテ民衆ノ希望ヲ満足セシムベク計劃シ設備セラレテアリマス實ニ圖書館ハ知識ノ寶庫デアリ修養ノ道場デアルト謂フベキデアリマス一タビ此ノ道場ニ上リマスト古今聖賢ノ人格ニ觸レ積學鴻儒ノ言説ニ接スルコトガ出來マシテ人格ノ修養ニ資スルハ言フ迄モナク坐ナガラ世界各地ノ風物ヲ視詳カニ人類文化ノ内容ヲ究メ經濟處世ノ途ヲ知り健康増進ノ法ヲ解シ精神的娛樂ヲ味フ等其裨益尠少デハアリマセン

本町夙ニ茲ニ見ル所ガアリマシテ公共圖書館ヲ設立シ多數ノ圖書ヲ蒐集シテ大衆ノ閱覽ヲ慫慂シ之ガ利用ヲ希望シテ居マス洵ニ幸福ノ至リデアリマス

本館デハ今回益々圖書館ノ機能ヲ發揮シ圖書ノ生命ヲ活現セシメン爲有志相集ヒ讀書會ヲ組織シ本館ノ圖書ヲ利用シテ知見ヲ擴メルト共ニ互ニ所見ヲ披瀝シテ知識ヲ交換シ疑ハシキハ之ヲ文獻ニ徵スル等相切磋シ相琢磨シテ専ラ修養ニ努メ時勢ノ進歩ニ後レヌヤウニシタイト思ヒマス素ヨリ各人ノ知識ニハ逕庭ガアリマシガ何人モ萬能ナル者無ク自己ノ直接關與スル以外ノ知識ハ多クハ淺薄粗笨ヲ免レマセン而モ此等門外ノ知識

ハ自己ノ人格ヲ豊富ニスル上カラモ將タ處世ノ上カラモ其大體ニ通ズル必要ガアリマシ倘夫レ博學多識ノ先進ニアリテハ利スル所少クアリヤセウガ冀クハ後進啓發ノ意味ニ於テ贊助アラントヲ望ミマス
終ニ臨ミ特ニ一言致シマス本會ハ口腹ノ慾ニ墮セズ娛樂ノ弊ニ陥ラズ終始一貫噴沸タル知識ノ源泉ヨリ混々不斷ノ清水ヲ汲取リ且會員互ニ相切磋セントスル純然タル修養團體デアリタイト思ヒマスドウカ奮ツテ御入會アラントヲ希望致シマス

昭和四年四月一日

彦根圖書館長 松原廣吉

彦根讀書會々則

第一條 本會ハ彦根讀書會ト稱シ彦根圖書館ノ主催トス

第二條 本會ノ事業左ノ如シ

一、彦根圖書館圖書ノ閱覽

二、會員相互ノ知識交換

三、其他修養上必要ト認ムル事項

第三條 前條ノ目的ニ賛シ本館長ノ承認ヲ經タル者ヲ以テ本會員トス

第四條 本會ハ毎月一回例会ヲ開クヲ以テ常例トス

(三) 青年讀書會

彦根青年訓練所長並ニ職員引率ノ下ニ生徒一同來館所要學科ニ關スル圖書ヲ閲覽シ學習スルコト數回ニ及ベリ

(四) 兒童會

幼少ノ時ヨリ圖書館ニ親シミ生涯的教育機關タル圖書館ヲ利用スル習慣ヲ養成セン爲兒童會ヲ開キお伽話圖書內容紹介發表等ヲ行フコト十數回別ニ小學校職員引率ノ下ニ本館ノ圖書ヲ利用シ學習數回ニ及ベリ

(五) 講演會

圖書館週間其他ノ機會ニ於テ時々講演會ヲ開催シ公衆ノ知徳増進ノ一助ニ供スルコト、セリ昭和四年末迄ニ各種講演會ヲ開催スルコト六回ニ及ベリ其他國家ノ主要記念日ニハ講演ノ外特ニ其日ニ關係アル文献ヲ陳列シテ閲覽ニ供シタリ

(六) 展覽會

○昭和三年秋今上天皇陛下御即位御大禮ヲ記念セン爲九月二十五日ヨリ五日間彦根名士遺墨展覽會ヲ開催ス入場者二千餘名アリ先人ヲ顯彰シ後進ヲ發奮セシムル上ニ裨益少カラザリシヲ信ズ

○昭和三年十月二十日明治五年學制頒布以來ノ小學校教科書展覽會ヲ開催シ珍書ヲモ解説陳列シテ一般ニ縱覽セシメタリ入場者六百餘名ニ及ブ

○昭和四年十月七日ヨリ十日マデ洋書展覽會ヲ開催ス入場者三千五百名ニ達シ盛況ヲ極ム此舉ニ際シ彦根高等女學校教諭古屋浩藏氏ハ特ニ多數貴重ノ出品アリ且多大ノ援助ヲ與ヘラレタリ

(七) 俳句會

毎月一回本館主催俳句會ヲ開催シ公衆ノ趣味向上ノ一助トセリ回ヲ重ヌル二十九回ニ及ブ

(八) 揚示教育及宣傳

常ニ館前掲示板ヲ利用シテ修養警句ヲ揭示シ時ニ圖書館紹介ヲ兼ネテ社會道德ニ關スル宣傳ビラヲ町内全戸ニ配附スルコトアリ其他ポスターヲ町内要所ニ掲ゲ茶ヲ調製シテ學校兒童全部ニ配與シ讀書獎勵ト共ニ社會教育上ノ一手段トセリ

(九) 巡廻文庫ノ設置

昭和四年十一月ヨリ御大典記念文庫ヲ開始シ町内床屋會社工場其他ニ廻附シテ廣ク公衆ノ閲覽ニ供シ圖書ヲ嚴選シテ特ニ思想善導ニ關スル注意ヲ拂ヘリ

(十) 本館則第十一條ニ依リ圖書館外貸出ヲ許ス外登館ノ餘裕ナキ本館圖書閲覽希望者ニハ私設弘道會ニ貸與シテ特ニ同會ヨリ圖書ノ配達ヲ行ヒ自宅ニ於テ閲覽セシムルコト、セリ

第十、其他

一、新館ニ移轉以來主ナル來館者左ノ如シ

- ◇昭和二年六月三日 井伊伯爵來館々内ヲ巡覽セラル
 - ◇昭和三年二月十四日 兒童會ニ於テ近江水電株式會社技師電氣ノ應用ニツキ講話
 - ◇昭和三年五月十日 文部省社會教育課在勤片岡重助氏視察
 - ◇昭和四年八月廿七日 關東廳事務官外事課長三浦義秋氏來館
 - ◇昭和四年九月十三日 東京帝國大學院多賀神社史編修文學士石村吉甫氏來館
 - ◇昭和四年十二月五日 農林省囑託中村勢之助氏來館
 - ◇昭和五年一月十二日 文部省社會教育官金井浩氏本縣社會教育主事立川淺七氏ト共ニ來館視察セラル
- 一、本館ニ於ケル各種集會ニ於テ講演ヲ請ヒシ人々左ノ如シ 茲ニ特記シテ謝意ヲ表ス
- ◇昭和二年十二月二日 婦人講演會ニ於テ滋賀縣水產試驗場長川端重五郎氏水產食料品ニツキ講話
 - ◇昭和三年五月廿三日 兒童會ニ於テ彦根尋常高等小學校長日向清藏氏ノお伽講演
 - ◇昭和三年六月二十日 兒童會ニ於テ彦根西小學校長狩野寅藏氏ノ說話
 - ◇昭和三年九月一日 關東大震記念講演會ニ際シ滋賀縣彦根測候所長筒井百平氏地震並ニ地震時ノ心得

講話

- ◇昭和三年十月十八日 御大禮記念講演會ニ於テ彦根高等商業學校教授服部富雄氏ノ御大禮ニ關スル講話
- ◇昭和四年六月九日 讀書會ニ於テ彦根高等商業學校長矢野貫城氏ノ島國ノ文明及特徴ニ關スル講話
- ◇昭和四年七月七日 讀書會ニ於テ彦根測候所長筒井百平氏ノ氣象雜談
- ◇昭和四年八月三日 講演會ニ於テ彦根高等商業學校教授田中秀作氏ノ歐米視察所感、實物幻燈ヲ用ヒ各國ノ風景產業等映寫
- ◇昭和四年九月九日 講演會ニ於テ彦根高等女學校教諭藤川助三氏思想問題ノ說話
- ◇昭和四年十月廿三日 東京のかご社主幹水野六山人氏俳句ニ關スル講話
- ◇昭和四年十月五日 講演會ニ於テ滋賀縣立彦根高等女學校長杉本一郎氏ノ滿鮮視察談

昭和五年二月五日印刷
昭和五年二月七日發行

【非賣品】

編輯兼
發行所

滋賀縣彦根四番町
彦根圖書館

印刷者

滋賀縣彦根五番町六十二番地
村下斯康

印刷所

滋賀縣彦根五番町六十二番地
村下印刷所

終